

第665回番組審議会報告

2022年2月1日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 今井美樹委員 鯨岡秀紀委員 太平信恵委員
津村記久子委員 細見良行委員 増山実委員

■毎日放送出席者

虫明社長、宮田専務、高山常務、磯澤取締役、藪内取締役、酒井取締役、
奥田信幸報道情報局長、奥田雅治プロデューサー、伊佐治整ディレクター、
津田コンプライアンス局長、中西番組審議会事務局長

◆議事の概要

テレビ番組「映像'21 責めない

～私が若者を支援する理由～」について

(2021年12月26日(日) 深夜0:50～1:50 放送)

【番組概要】

大阪のNPO代表の今井紀明さんは困窮する若者へ食料を送るなどの支援活動を行っている。実は今井さんは2004年、18歳の時にイラクで武装勢力の人質となり、解放後、政府首脳「自己責任論」による強烈なバッシングを受けた。様々な分野の人たちに寄付を募り活動する「社会起業家」の一面も持ちながら、今井さんが思い描く若者を孤立させない社会像を見つめる。

【各委員の主な意見は次の通り】

- * 今井さんの過去から現在に至るまでが丁寧に描かれて、見守った両親の存在もしっかり描かれていて、非常にいい番組だと思った。
- * 今井さんが人生で誰かを助けようとするので立ち直っている様子そのものが、誰かに可能性を示しているのではと思えてとてもよかった。
- * 今井さんに寄付するホストと会社役員の話がすごく興味深かった。彼らが得た金を、今井さんを通じてリアル社会で見えてこない人に寄付しているという構図がすごく面白いと思った。
- * 今井さんから支援を受けている女性が、リアルではないバーチャルの世界で生活の糧を得ているというシーンはとても響いた。
- * なぜ親がそういうふうの子育てしてきたのかというのも、もうちょっと聞きたかった。

- * 「責めない」というタイトルがどうしても人質事件を連想させる。「若者を支援する」という部分をもう少し全面に出せなかったのかと思った。
- * 「責めない」というタイトルは責めない形で彼がいろんな人を支えていることや、興味を引くタイトルにもなっていて秀逸だと思った。
- * イラクの人質事件のエピソードは冒頭よりも、もっと今井さんの日常と活動を描いた後で出してもいいと思った。
- * 今井さんが、若い頃の全否定された体験から、現在若者の支援活動をしているポリシーが若者を決して責めないことだという行動原理は見えてとてもよくわかったが、描き方としてはやや図式的に感じる場所もあった。
- * 今井さんにバッシングの葉書を送った人たちもリアル社会で顔の見えない人で、今井さんが支援している人たちと同じところにいる人じゃないかなと感じた。彼らに対する現在の今井さんの考え方をもう少し聞いてみたかった。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- * 「責めない」というタイトルは、バッシングを受けた今井さんが、誰に対してもまず相槌を打って話を展開していくという姿勢が一貫しているところから浮かんだキーワードだった。
- * 内容をわかりやすくするためにイラクのエピソードを冒頭に出したが、次回以降またいろいろな構成にトライしてみたい。
- * いつも構成についていろいろ議論しながら作っているが、当時は就職氷河期世代と言われた頃で、新自由主義が声高に言われるようになった時代なのでそのような背景に言及してもよかった。

以 上